

## 「髄液バイオマーカー診断された軽症アルツハイマー病における漢字書字能力と認知機能の検討」

第 38 回日本認知症学会学術集会（2019 年 11 月 7—9 日、東京）にて発表

（発表者：葛谷聡、宮本将和、山本洋介、打田倫子、国立淳子、福原俊一、高橋良輔ほか）

### 【目的】

日本漢字能力検定協会（以下、漢検）との共同研究にて、髄液バイオマーカー診断された軽症アルツハイマー病（以下、AD）患者の漢字書字能力と認知機能を検討する。

### 【方法】

対象はもの忘れを主訴とする当院患者で臨床的に軽症 AD（年齢 50 歳以上）が疑われ、髄液中のアミロイド $\beta_{40}$  ( $A\beta_{40}$ )、アミロイド $\beta_{42}$  ( $A\beta_{42}$ )、リン酸化タウ (p-tau) を測定した疾患群 30 名と質問票により物忘れを認めない健常群 30 名。疾患群は髄液 AD バイオマーカー陽性 17 症例を AD 群、陰性 13 例を非 AD 群に分類。認知機能評価に加え、漢検の漢字検定問題（5 級から準 2 級）よりランダム抽出し作成した漢字読み書き問題を実施し、髄液バイオマーカーの各パラメーターと認知機能評価の各スケールとの相関を比較検討した。

### 【結果】

漢字書字テストの正答率 (mean [SD]) は、健常群 78.5 (21.9) %、非 AD 群 56.8 (17.1) %、AD 群 48.3 (23.5) % の順で有意に低下した。誤答パターンを無反応、錯書に分類し、誤答における無反応の割合 (無反応率) (mean [SD]) は健常群 36.3 (32.6) %、非 AD 群 42.8% (19.5) %、AD 群 56.6% (29.3) % の順で有意に増加した。スピアマンの順位相関分析を用いた解析で、AD 群でのみ無反応率が ADAS-Jcog ( $r$  0.49,  $p$  < 0.05)、カテゴリー語流暢 ( $r$  -0.75,  $p$  < 0.001)、論理的記憶 ( $r$  -0.65,  $p$  < 0.01)、WAIS 積木模様 ( $r$  -0.58,  $p$  < 0.05)、TMT-A ( $r$  0.50,  $p$  < 0.05) と有意に相関した。さらに AD 群を無反応率の高い群、低い群で分類したところ、両群で教育歴、年齢、髄液バイオマーカーによる AD 病理指標 (p-tau 値 $\times$  $A\beta_{40/42}$  比など) には有意差がないものの、無反応率の低い群で有意に MMSE 高値、ADAS 低値を認めた。

### 【結論】

AD では早期より漢字の想起障害を認め、認知機能障害と相関した。AD 病理が同程度の場合、漢字の想起障害が軽度なほど認知機能障害の程度が軽く、漢字書字能力と AD 疾患抵抗性との関連が示唆された。